

岐阜県感染症発生動向調査（2018年第18週～第22週分、5月分）コメント

感染症全般（性感染症を除く）

平成30年6月20日

月番：大西 秀典

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は、発症患者および潜在性結核感染症のいずれも前年同期までの累計及び対象月の対前年比と比較し報告数が大きく減少しているが、依然として毎週コンスタントに報告例はある。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症は散発しているが、大規模な発生事例はない。
- ・ 四類感染症については、デング熱とレジオネラの散発例の報告がみられる。
- ・ 五類感染症については、今のところ特別多いと思われる感染症はないが、後天性免疫不全症候群の報告が、前年同期までの累計と比較し増加している。
- ・ 百日咳は、18週を除き毎週報告(合計7例)されている。
- ・ 麻疹患者の報告例はない。

<定点把握対象疾患>

- ・ 咽頭結膜熱が20週以降増加しつつある。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が19週以降増加しつつある。
- ・ 感染性胃腸炎は、コンスタントに報告されている。
- ・ 水痘は19週以降発生数が増加しており、対前月比で1.9倍となっている。
- ・ 突発性発しんは、コンスタントに報告されているが、前月比では減少している。
- ・ 流行性耳下腺炎は、前年同期比で著減している(14.3%)。

- 結核は、毎週コンスタントに報告があり、引き続き県民および医療者への注意喚起・啓発が必要である。
- 後天性免疫不全症の累計が増加傾向であり、県民への注意喚起・啓発が必要である。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加傾向であり、県民への注意喚起が必要である。

性感染症

平成 30 年 6 月 20 日

月番：和泉 孝治

<全数把握対象疾患>

- ・後天性免疫不全症候群は 無症候性キャリア 2 例、AIDS 0 例、その他 1 例、合計 3 例の報告。本年累計は 11 例、前年同期累計と比較して 8 例 多くなっている。
- ・梅毒は期間中 7 例の報告があった。
本年累計は 28 例。男性 15 例、女性 13 例（男女比 1.2）と、昨年累計の男女比（1.9）に比較して 女性の発生比率が多くなっている。女性の年齢分布は 20 歳代が特に多い。全国集計でも近年女性の割合が増加している。

<定点把握対象疾患>

- ・性器クラミジア感染症：男性 11、女性 9 の報告。累計：男性 51、女性 38、男女比：1.3
- ・性器ヘルペス：男性 4、女性 1 の報告。累計：男性 13、女性 7、男女比：1.9
- ・尖圭コンジローマ：男性 9、女性 0 の報告。累計：男性 28、女性 5、男女比：5.6
- ・淋菌感染症：男性 5、女性 0 の報告。累計：男性 24、女性 8、男女比：3

全国集計と特別異なった傾向は認められないが、梅毒の増加傾向、尖圭コンジローマの増加傾向などに注視していく必要があると考えます。また、女性については性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋菌感染症 5 月報告 0 は、一般診療所で診察している担当（和泉）にとって、考えにくい報告数であり、定点観測の設定について再考をご検討いただいたほうが良いかとも考えます。（性感染症を疑って 2 次医療機関以上を受診するか？を含めて）